

平成30年度 第1回 横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 平成30年7月18日（水） 13時15分～15時30分
- 2 場 所 文化観光局会議室
- 3 出席者 上杉 幸雄 委員、垣内 恵美子 委員、西田 由紀子 委員、藤崎 晴彦 委員
- 4 欠席者 無し
- 5 傍聴者 無し

6 議事内容

議題	1 平成29年度業務評価
委員意見等	<p>1 委員長の選出 委員の互選により、上杉委員を委員長に選出した。</p> <p>2 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>3 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会運営要綱 第9条に基づき、公開とした。</p> <p>4 議題「平成29年度業務評価」 (1) 評価関係資料について ア 評価資料及び評価方法の確認 事務局から、評価に使う資料、評価方法について説明があった。 イ 指定管理者業務実績及び自己評価について 指定管理者から、業務報告書に基づき、平成29年度事業実績として、基本方針及び達成目標の総括、事業、運営、管理及び収支決算などについて、実績の説明があった。また、評価表に基づき自己評価について要点の説明があった。 ウ 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価について要点の説明があった。</p> <p>(2) 指定管理者へのヒアリング 委員から指定管理者に対する質疑及び評価内容（評価できる点、改善すべき点）の説明を行った。 《質疑》 委員 評価表中、「大人のための寄席体験」実施状況の説明で、一部「アウトリーチにしたため参加者数は目標に達せず」とあるが、“鑑賞者の裾野の拡大”という観点では、アウトリーチに参加した方も同様に“参加者”と捉えられるのではないかと。</p>

指定管理者 2回とも参加者にはカウントしているが、アウトリーチ先の会場を小さくしたため、定員自体が減った。各回視点を変えて開催できたことは成果と感じている。

委員 裾野拡大に努めている点を確認できた。

委員 「狂言と落語で楽しむ『宗論』」の入場者数は。

指定管理者 306名。ほぼ満席だった。

委員 以前は異なるジャンルの芸能を比較対照する企画が多く見られたが、今はこのような企画内容を若い人に興味を持ってもらえるかが課題で、にぎわい座でこれを打破してもらうことを期待したい。

委員 市民サポーターについて「自己実現を図っていただけるような人材を増やす」との説明があったが、具体的にどのような人を想定しているのか。

指定管理者 日ごろ施設職員だけでは手の届かない部分を、市民サポーターの力により実現したい。例えば、公演モニタリングで話を伺った方から、新規アウトリーチの提案を受けるなど、サポーターに繋がっていく場合がある。

委員 教育ニーズの高まりは好材料だが、学校教育現場は時間が無く、学校と施設を繋ぐのが難しい状況である。行政側で、施設と学校を結ぶプラットフォームやスクールコーディネーターのような形で、学校の先生をサポートしてはどうか。

事務局 学校現場と文化施設・アーティストをつなぐ場として、市と財団、NPO法人による「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」を設けている。そこでコーディネートする「学校プログラム」事業（にぎわい座でも29年度5校で実施）を通じ、引き続き学校現場の状況に応じた取組を進めていきたい。

委員 狂言と落語は成り立ちが異なる芸能なので、その共通点と相違点を明らかにするという難しいテーマを、今後どう展開されるのか。

指定管理者 狂言と落語をテーマにした公演は、平成30年度も3月に行う予定。今回は、人間対物の怪というテーマで狂言は「蚊相撲」、落語は「化け物使い」を楽しんでいただき、そこから“想像力”という観点で話を進めようと考えている。H29年度は広く浅くといった内容だったが、今回はさらに絞り込んだ座談会も行いたいと考えている。

委員 利用料金の未達に関して、特に制作室が利用率40%でもったいない。利用料金を勘案すると、もっとニーズがあると思うが、利用目的で制限をしているのか。

指定管理者 利用目的による制限は行っていない。机や椅子が特殊な形をしているなど、打合せには使いづらい部屋、という面はある。

委員 ロケーションがよく、様々な企業もある地域なので、利用率が低いのは、具体的に何が課題なのか検討をした方がよい。

指定管理者 一般の人にとって、大衆芸能施設のイメージと、練習室や制作室という低廉でレッスンや会議等に使える部屋が地下にあることが、つながっていないと思っている。今、施設の外壁に、練習室と制作室の写真と料金を入れたポスターを貼り出している。30年度は、のげシャールを含めた地下の各室のキャンペーンに力を入れたい。

委員 アシスタントプロデューサーは平成29年度にはいなかったが、30年度はいるのか。中長期的な人材育成の切り札だったと思うが。

事務局 29年度にアシスタントプロデューサーの役割を整理し、プロデューサーとアシスタントプロデューサーの差がわかりにくいということで、無くした経過がある。現在は、現場でプロデューサーとなりうる人材の育成を行っている。

委員 公演が終わった後に当日の演目が貼り出されるが、人が群がっているの
で、もう1カ所ぐらいあれば皆さん助かると思う。みんな携帯で撮っている。
指定管理者 現在は、芸能ホール公演であれば3階に貼り出しているが、今後
は1階にも貼り出したい。

《評価内容の説明》

「I文化事業①」について

【評価できる点】

- ・「にぎわい寄席」区民優待等のタイアップ、「名作落語の夕べ」リニューアル等、きめ細かい工夫により、集客増につなげた点は、評価できる。
- ・区民優待の49%の方が初めて来館された方で、新規来館者の発掘につながった点は非常によい。
- ・「名作落語の夕べ」のリニューアルについて、価格を下げ売上を増やして収益につなげることは、実際に実施するのは勇気が要る。入場者数とチケット販売数が伸びた点は、非常に評価できる。
- ・能楽堂の協力による狂言と落語のコラボレーション「狂言と落語で楽しむ『宗論』」は、非常に興味深い企画である。
- ・同じエリアの能楽堂や動物園とのタイアップは、これからも期待できる。新しい取り組みなので、創意工夫してほしい。
- ・柳家三三師匠の11回シリーズは、新作によるネタおろしの試みもすばらしく、チケットのセット販売の工夫もよかった。
- ・のげシャレから芸能ホールへステップアップする若手育成の仕組みは、鑑賞者の側としても芸人が伸びていくのを楽しみにすることができ、この施設の強みと言える。
- ・バックステージツアーを意欲的に行っており、地道な努力を重ねている点（を、高く評価したい。

【改善すべき点】

- ・人材発掘の面では、年間延べ300人以上になる「にぎわい寄席」出演の落語家等から、「名作落語の夕べ」の演者としても、広く登用する視点があれば、よりよいものができるのではないかと。
- ・当日の会場配布のプログラム等に分かりやすい演目解説を入れるなど、もう一工夫あると、演者、演目を楽しむ幅が広がり、大衆芸能の魅力が様々な来場者に伝わると考える。
- ・アンケート回収率（8%）を高める工夫が必要。SNSに連動させ、後からでもアクセスできるようにする等、工夫できないか。
- ・市民サポーターについては、市民が愛着を持ち発意が引き出せると本質的なものに近づく。PDCAにどう市民サポーターを入れていくのかを考える必要がある。ホームページの市民サポーターモニタリング結果の公開場所が分かりづらい等の指摘があった。

「I文化事業②」について

【評価できる点】

- ・開館15周年を記念し、企画展示に力を入れ、様々な企画を発信し続けた点。
- ・ホームページ上にH29年度の「名作落語の夕べ」の上演演目を公開した点は評価する。過去の分も順次公開されることを期待する。上演希望演目をホームページにより募集する、といった仕掛けも考えられる。
- ・広報面で、チラシラックの置き方、ホームページで解説を入れた点等、客目線での改善、細かな配慮が進んでいる。
- ・「にぎわい寄席」のチラシに写真を入れた点はよい。写真があると親近感が沸く。さらに、出身地等のプロフィールが分かるようになるとうい。
- ・旅行企画商品化の件数が、目標3件に対し、旅行会社の申込6件となった点を評価する。
- ・その他、都市戦略と連携した事業の実施、積極的な近隣文化施設や団体との協働、野毛地区等の地域との連携、等を評価する意見があった。

【改善すべき点】

- ・ターゲットによって広報の仕方も変わってくるので、アンケートの実施等、フィードバックが得られる仕組みづくりが必要。
- ・電子大福帳の公開に向けた検討は進めてもらいたい。
- ・情報発信やアウトリーチの効果や課題の検証が必要。
- ・外国人の公演モニタリングについて、オリンピックやパラリンピックに向け、実施対象の国を増やしていく必要がある。

「Ⅱ施設運営」について

【評価できる点】

- ・施設利用の目標は未達だったものの、これまで以上の数字となり改善は見られている。利用料金収入も予算に対し90%の達成率となり、厳しい条件の中で成果を出したと評価する。
- ・組織面では、チーフプロデューサーを中心として専門性の向上に努め、運営組織の質を上げる努力が見られる。
- ・利用希望者の施設見学受入回数が多かったことで、ホールセールスのアピールが進んだものと評価できる。
- ・ダンス関係者へのメール配信等、焦点を絞った効果的なPRを実施するなど、きめ細かく利用促進に取り組んでいる。
- ・ドラマ収録や貸切公演でのホール利用が進んだ点が、利用料金収入にも貢献している。
- ・要望や苦情の報告について、組織の上部と現場の共有が図られている。
- ・ダブルチェック、顧客情報の保管の電子化等、客の増加に対応する情報管理の水準が上がっていると評価したい。

【改善すべき点】

- ・施設職員、アルバイト、市民サポーター等、多様な立場の方々が運営に携わる中で、サービスの向上を目指す目的で、体系化されたアートマネジメントセミナー受講の機会があるとよい。
- ・利用率が前年度を超えたもののまだ目標までには達していないので、利用

率向上の対策を、引き続き検討いただきたい。

「Ⅲ維持管理」について

【評価できる点】

- ・維持保全、管理保全、救急対応、防災体制、職員の資格更新、訓練、日常の確認等、適切に行われている。
- ・緊急時の対応として、マニュアルを簡潔化した「避難誘導行動シート」として、現場が使いやすいものを作った点を評価する。
- ・昨今、想定外の自然災害も起こらないとは限らず、高齢者の増加等も視野に、訓練やマニュアル作成について恒常的に取り組んでもらいたい。
- ・避難訓練や防災訓練を、同じビルの中の人等と連携してやっている点や、来館者アンケートが高い評価につながっている点なども評価したい。

【改善すべき点】

- ・施設・設備は経年劣化が避けられないので、計画的な修繕や小破修繕、予防修繕により、施設の長寿命化に向け、継続した取組をしてもらいたい。
- ・周辺地域とも連携しながら、他の事例に常に広く耳目を開き、何かが起こった際の保全管理と備えを常に意識して運営してもらいたい。

「Ⅳ収支」について

【評価できる点】

- ・全体収支バランスは、目標達成には至らなかったが、改善の方向性を見出すことができた点を、努力の成果と高く評価する。
- ・自主事業収入が予算に対して8.6%増加（プラス1,000万円）で、事業収支が大幅に改善しており、さまざまな施策がうまくいった結果と考えられる。収支が安定してくれば、よりさまざまな施策を打てるので、今後も安定した取組を着実に行ってもらいたい。
- ・文化事業におけるきめ細かい改善や工夫が、収入の大幅改善に結びついているが、それだけ大衆芸能が人々に浸透しているという見方もできる。
- ・指定管理料のみに依存しない収入構造を意識しながら、今後も努力してもらいたい。

【改善すべき点】

- ・利用料金収入を少しでも伸ばし、前年度を超えるよう取り組んでもらいたい。
- ・施設利用については、これまでの取組の検証も含めて検討してもらいたい。
- ・部屋を借りる人の立場を考慮して、部屋や空間の使いやすさ、申し込みのしやすさ等の工夫をし、きめ細かい情報を具体的に提供する等の工夫の余地がある。
- ・地下諸室のキャンペーンについて期待している。

「その他」について

- ・新しいお客さんをつかむため「大人のための寄席体験」を行っているが、中身は落語が中心となっている。寄席は落語以外のものもあると思うので、

	<p>そういったものも交えて、より寄席のイメージを大衆芸能全般に広げていけるような形にするとよい。</p> <ul style="list-style-type: none">・広報の取組で、公演を見た客が、ホームページから落語検定や参加型のミニクイズなどに参加できるような仕組みをつくると、若い人の呼び込みの工夫になる可能性がある。・インスタグラムとリンクする等、様々なツールをうまく活用した拡散、情報発信を活用して、なるべくコストをかけずに多くの人に知ってもらう機会を作ると良い。・今、高齢者や病気の人に対しての“笑い”の効用がテレビ、新聞などで大きく報道されている。福祉施設、老人ホームや病院でリハビリ中の方達に、アウトリーチ事業の一環として出向くことは考えられないか。・特に若い芸人はそういう場を求めて様々なところで活動しており、大いに協力を得られると思う。若手育成の観点からも、アウトリーチ事業の中に生かしてもらえるとよいのではないか。 <p>「総括」について</p> <ul style="list-style-type: none">・以上の評価、課題等を踏まえ、引き続き、大衆芸能の伝統と創造の魅力あふれる公演、貸館利用の促進、市民や社会との連携などの取組により、大衆芸能の魅力を、大いに市民の中に根づかせてもらいたい、等の総括があった。 <p>3 まとめ</p> <p>本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。</p>
--	--